

1973年 春休み帰省旅行①～日本海側と長野方面の旅

1973年2月18日(日)～21日(水)

【1973年2月18日(日)】

(1) 仙山線、奥羽本線(羽前千歳～米沢)、米坂線、羽越線、白新線

仙山線は、宮城県仙台市青葉区の仙台から山形県山形市の羽前千歳を結ぶ 58.0 km の路線で、1973年2月時点では13駅でしたが、仙台近郊の通勤・通学のため新しい駅が増え、現在では18駅あります。

この当時は、仙台と新潟を結ぶ急行列車として仙山線経由の「あさひ」が運行されており、両駅間の所要時間は約5時間でしたが、直通ということもあり新潟出身の大学の友人の多くは「あさひ」を利用していたと思います。1973年の春休みに帰省する際、日本海側を経由して四国まで帰るルートと決め、新潟までは「急行あさひ」を利用しました。

仙台を7時20分に出発し、下宿のあった北仙台を通過し、作並や山寺を過ぎて山形には8時49分に到着しました。この時、山形の2駅手前の羽前千歳を通過した時点で仙山線は全区間乗車となりました。

<1973年2月18日>

- 仙台
 - | 7:20 発
 - | 仙山線 急行あさひ1号[新潟行] 1時間29分
 - | 8:49 着
- 山形
 - | 8:58 発
 - | 奥羽本線 急行あさひ1号[新潟行] 51分
- 米沢
 - | 9:49 発
 - | 米坂線 急行あさひ1号[新潟行] 1時間55分
 - | 11:44 着
- 坂町
 - | 11:46 発
 - | 羽越線 急行あさひ1号[新潟行] 20分
 - | 12:06 着
- 新発田
 - | 12:08 発
 - | 白新線 急行あさひ1号[新潟行] 27分
 - | 12:35 着
- 新潟
 - | 13:50 発
 - | 越後線(普通)[柏崎行] 2時間21分
 - | 16:11 着
- 柏崎

仙山線、奥羽本線ダイヤ

急行あさひ1号	
仙山線	仙台 7:20
	北仙台 7:27
	陸前落合 ↓
	陸前白沢 ↓
	熊ヶ根 ↓
	作並 7:57
	(臨)八ヶ森 ↓
	奥新川 ↓
	(臨)面白山 ↓
	山寺 8:31
	高瀬 ↓
	楯山 ↓
	羽前千歳 ↓
	北山形 8:45
	山形 8:58
	蔵王 ↓
	北上ノ山 ↓
	羽上ノ山 9:10
奥羽本線	羽前中山 ↓
	中山川 ↓
	赤湯 9:28
	糠ノ目 9:34
	置賜 ↓
	米沢 9:49



米坂、羽越、白新線ダイヤ

急行あさひ1号	
米	沢 9:49
南	米 沢 ↓
西	米 沢 10:00
成	島 ↓
中	郡 ↓
羽	前 小 松 10:13
犬	川 ↓
今	泉 10:22
萩	生 ↓
米	羽 前 椿 10:32
坂	手 ノ 子 ↓
線	羽 前 沼 沢 ↓
	伊 佐 領 ↓
	羽 前 松 岡 ↓
	小 国 11:09
	玉 川 口 ↓
	越 後 金 丸 ↓
	越 後 片 貝 ↓
	越 後 下 関 11:31
	越 後 大 島 ↓
	花 立 ↓
坂	町 11:46
羽	平 木 田 ↓
越	中 条 11:54
本	金 塚 ↓
線	加 治 ↓
	新 発 田 12:08
	西 新 発 田 ↓
白	佐 々 木 ↓
	黒 山 ↓
	葛 塚 ↓
	早 通 ↓
	新 崎 ↓
	大 形 ↓
新	潟 12:35

当時は主要駅に Discover Japan のスタンプが設置されており、駅に降りる度にスタンプを押していました。今で言えば御朱印帳のようなものだったのかもしれません。停車時間が9分あった山形と終点の新潟のスタンプはありましたが、他の駅のスタンプはありませんでした。

また、当時は当然ながらフィルムカメラしかなく、値段の関係でカラーとモノクロを併用していました。この旅行で撮影したモノクロ写真のネガがあり、デジタル化した写真を見ると観光地の写真ばかりで鉄道の写真はありませんでした。ということは、当時は鉄道にそれ程の興味は無く、観光目的の帰省旅行だったのだと思います。

第1部の旅の記録は50年前の出来事のため、記憶に残っていることはほとんどありません。このスタンプ帳の余白に書かれていた乗車列車に関する情報だけが頼りでした。そのため、当時のダイヤを調べるために交通公社の「旅の図書館」へも行きました。

越後線のダイヤ

	144D
新	潟 13:50
白	山 13:55
関	屋 13:59
小	針 14:05
寺	尾 14:09
内	野 14:15
越	後 赤 塚 14:25
後	曾 根 14:29
卷	14:36
岩	室 14:41
吉	田 14:52
南	吉 田 ↓
粟	生 津 14:58
地	藏 堂 15:04
大	河 津 15:10
桐	原 15:14
小	島 谷 15:19
妙	法 寺 15:24
出	雲 崎 15:30
小	木 ノ 城 15:34
石	地 15:40
礼	拝 15:45
西	山 15:49
刈	羽 15:53
荒	浜 15:58
西	中 通 16:02
東	柏 崎 16:07
柏	崎 16:11



新潟



新潟

【1973年2月19日(月)】

(2) 信越本線(柏崎～長野)、篠ノ井線(長野～松本)、大糸線、北陸本線(糸魚川～金沢)

<1973年2月19日>		
○柏崎		
8:16 発		
信越本線(普通)[直江津]48分		
9:04 着		
○直江津		
9:25 発		
信越本線(普通)[長野行]1時間59分		
11:24 着		
○長野		
11:48 発		
篠ノ井線(普通)[松本行]1時間57分		
13:45 着		
○松本		
15:26 発		
大糸線(普通)[信濃大町行]1時間02分		
16:28 着		
○信濃大町		
17:45 発		
大糸線(普通)[南小谷行]1時間01分		
18:46 着		
○南小谷		
19:00 発		
大糸線(普通)[糸魚川行]51分		
19:51 着		
○糸魚川		
19:54 発		
北陸本線(普通)[富山行]1時間44分		
21:38 着		
○富山		
23:21 発		
北陸本線(普通)[金沢行]51分		
0:26 着		
○金沢		

信越線のダイヤ

	1350M	338M
柏崎	8:16	
鯨波	8:21	
青海川	8:25	
笠島	8:28	
米山	8:33	
柿崎	8:40	
上下浜	8:44	
潟町	8:48	
土底浜	↓	
犀潟	8:54	
黒井	9:00	
直江津	9:04	9:25
春日山		9:34
高田		9:43
南高田		↓
脇野田		9:47
北新井		↓
新井		9:54
二本木		10:04
関山		10:21
妙高高原		10:32
黒姫		10:43
古間		10:47
牟礼		10:57
豊野		11:07
三才		11:11
北長野		11:18
長野		11:24

この日は長野及び松本を経由して再び日本海側の糸魚川に出る計画です。そのため、柏崎を8時16分発の信越線の直江津行きに乗り、直江津に9時04分に到着しました。直江津で9時25分発の長野行き列車に乗り換え、長野に11時24分に到着しました。現在はこれらの区間は第

3セクター鉄道に移管されていますが、この当時は長野新幹線が開通していなかったため国鉄の路線でした。

長野からは11時48分発の篠ノ井線に



乗り換え、日本3大車窓風景の1つと言われる姨捨から善光寺平を望む景色も見たのかもしれませんが全く記憶にありません。そもそも、当時はその情報を知りませんでした。松本に着いたのは13時45分で、その後に乗り継ぐ大糸線が15時26分だったので1時間半以上の待ち時間がありました。その時間を利用し、松本城と開智学校に行ったことは当時の写真からもわかりました。篠ノ井線については、この時に長野から松本の間を乗車しました。

大糸線のダイヤ

	239M	341M	135D
松 本	15:26	16:34	
北 松 本	15:31	16:36	
島 内	15:34	16:40	
島 高 松	15:36	16:42	
梓 橋	15:39	16:44	
一日市場	15:41	16:47	
中 萱	15:44	16:50	
南 豊 科	15:47	16:53	
豊 科	15:51	16:56	
柏 矢 町	15:55	16:59	
穂 高	15:58	17:06	
有 明	16:01	17:09	
安曇追分	16:04	17:12	
細 野	16:08	17:16	
北 細 野	16:10	17:18	
信濃松川	16:14	17:22	
安曇沓掛	16:18	17:26	
信濃常盤	16:21	17:35	
南 大 町	16:26	17:39	
信濃大町	16:28	17:45	
北 大 町		17:48	
信濃木崎		17:52	
稻 尾		17:55	
海 ノ 口		17:58	
篠 場		18:02	
南 神 城		18:11	
神 城		18:15	
飯 森		18:18	
白 馬		18:22	
信濃森上		18:31	
白馬大池		18:37	
千 国		18:42	
南 小 谷		18:46	19:00
中 土			19:07
北 小 谷			19:13
平 岩			19:21
小 滝			19:30
根 知			19:37
頸城大野			19:44
糸 魚 川			19:51

篠ノ井線のダイヤ

	226D
長 野	11:48
川 中 島	11:54
篠 ノ 井	12:00
稻 荷 山	12:05
姨 捨	12:25
冠 着	12:36
麻 績	12:41
坂 北	12:57
西 条	13:16
明 科	13:28
田 沢	13:36
松 本	13:45

少しの観光を終え、松本を15時26分発の大糸線の電車に乗り信濃大町で乗り換え、さらに南小谷から糸魚川の間は電化されていないためディーゼル車に乗り換えて糸魚川に到着したのは19時51分でした。

今朝、柏崎を出発し、長野、松本を経由して再び日本海側に戻ってきました。糸魚川発19時54分の北陸線の列車に乗り、富山に21時38分に到着しましたが、富山では2時間近くの待ち時間がありました。

その時のことでの記憶に残っていることは、富山駅構内の食堂で食べたうどんのつゆが真っ黒だったことでした。関西風の薄いつゆを期待していた



のでガッカリしたことを覚えています。富山は関西圏と関東圏の境界線エリアにあると言われていますが、この点では関東風だったのでしょう。富山駅で2時間も何をしたかは覚えていませんが、宿泊代を節約する目的で夜行列車を利用していた訳ですから、駅の待合室でウトウトしていたのかもしれません。富山を23時21分発の夜行列車に乗り、金沢には日が変わって翌日の0時26分に到着しました。



【1973年2月20日(火)】

(3) 七尾線(金沢~七尾)、北陸本線(金沢~米原)

金沢駅の待合室で七尾線の1番列車の発車を待ち、3時49分発の輪島行きに乗車しました。第2部で書いているとおり、現在の七尾線は和倉温泉までですが、この当時は輪島までありました。しかし、輪島まで往復すると時間がかかるので七尾までの往復にしたのではないかと思います。七尾に5時23分に到着しても外はまだ暗く、駅の近くでSLの写真を撮ったような記憶があったのですが、その写真は残っていませんでした。



北陸本線のダイヤ ①

	428D	524
糸魚川	19:54	21:32
青海	20:02	21:39
親不知	20:08	21:45
市振	21:17	21:54
越中宮崎	20:23	21:59
泊	20:28	22:05
入善	20:34	22:19
西入善	20:39	22:24
生地	20:44	22:29
黒部	20:50	22:34
魚津	20:58	22:41
東滑川	21:04	22:47
滑川	21:15	22:51
水橋	21:22	22:57
東富山	21:08	23:03
富山	21:38	23:21
呉羽		23:27
小杉		23:34
越中大門		23:38
高岡		23:45
西高岡		23:51
福岡		23:55
石動	0:22	
俱利伽羅		↓
津幡		0:15
森本		↓
東金沢		↓
金沢	0:26	

<1973年2月20日>

- 金沢
 - | 3:49 発
 - | 七尾線(普通)[輪島行] 1時間34分
 - | 5:23 着
- 七尾
 - | 6:36 発
 - | 七尾線(快速)[金沢行] 1時間20分
 - | 7:56 着
- 金沢
 - | 11:04 発
 - | 北陸本線(快速)[福井行] 1時間57分
 - | 12:00 着
- 芦原温泉
 - | 16:27 発 北陸本線
 - | (急行) ゆのくに3号[大阪行] 1時間37分
- 米原
 - | 18:04 発 東海道本線
 - | (急行) ゆのくに3号[大阪行] 51分
 - | 18:55 着
- 京都

七尾線のダイヤ

	321D
金 沢	3:49
東金 沢	3:54
森 本	3:59
津 幡	4:06
中津 幡	↓
本津 幡	4:11
能 瀬	↓
宇野 気	4:17
横 山	4:22
高 松	4:26
免 田	4:31
宝 達	4:36
敷 浪	4:40
南羽 昨	↓
羽 昨	4:51
千 路	4:56
金 丸	5:01
能登 部	5:06
良 川	5:10
能登二宮	↓
徳 田	5:17
七 尾	5:23

七尾からは 6 時 36 分発の列車で金沢に戻り、7 時 56 分に到着しました。その後、午前中は市内観光で兼六園に行き、雪吊りをした園内の木々を撮影した写真が残っていました。

金沢観光を終え、11 時 04 分発の快速で芦原温泉に 12 時 00 分に到着し、芦原温泉からバスに乗って柱状節理で有名な東尋坊に行きました。東尋坊は小雨模様でしたが、その絶景を見ることができました。その後、芦原温泉に戻り 16 時 27 分発の急行「ゆのくに 3 号」で米原を経由して京都には 18 時 55 分に到着しました。この当時は湖西線が開通していなかったので北陸本線の列車は米原経由で京都まで運行しており、今回の旅で北陸本線は糸魚川から米原までの間を乗車することができました。

東海道本線ダイヤ

(急行)ゆのくに 3 号	
芦原温泉	16:27
丸 岡	↓
春 江	↓
森 田	↓
福 井	16:43
越前花堂	↓
大 土 呂	↓
北 鯖 江	↓
鯖 江	↓
武 生	16:58
王 子 保	↓
鯖 波	↓
湯 尾	↓
今 庄	↓
南今 庄	↓
敦 賀	17:25
新疋 田	↓
近江塙津	↓
余 吳	↓
木ノ 本	↓
高 月	↓
河 毛	↓
虎 姫	↓
長 浜	↓
田 村	↓
坂 田	↓
米 原	18:04
彦 根	18:10
河 瀬	↓
稻 枝	↓
能 登 川	↓
安 土	↓
近江八幡	↓
篠 原	↓
野 洲	↓
守 山	↓
草 津	18:37
瀬 田	↓
石 山	↓
膳 所	↓
大 津	18:47
山 科	↓
京 都	18:55

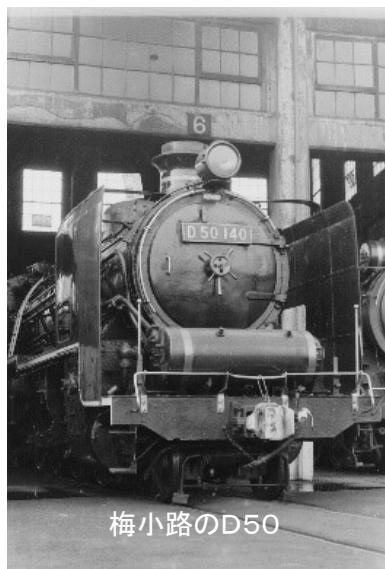
北陸本線のダイヤ②

	3326M
金 沢	11:04
西金 沢	↓
野々 市	↓
松 任	11:13
加賀笠間	↓
美 川	11:20
小舞 子	↓
寺 井	11:25
小 松	11:31
粟 津	11:36
動 橋	11:41
加賀温泉	11:45
大聖 寺	11:50
牛ノ 谷	↓
細呂 木	↓
芦原温泉	12:00



京都では高校時代の友人の古い木造3階建ての下宿に泊めてもらいました。その当時、木造3階建ての家を見たことがなく、古い京都ならではの家だったのだと思います。

翌日は友人と一緒に西芳寺や嵐山などの有名な観光地へも行きました。その後、友人も一緒にいたかどうかは記憶に無いのですが、梅小路蒸気機関車館でSLの動態展示を見てきました。この施設がオープンしたのは1972年10月10日だったので、オープンしてまだ半年も経っていない時だったようです。ここで見たのはツバメのマークのついた「スワローエンゼル」C62の2号機でしたが、この年の夏に北海道の函館本線で乗った列車を牽引していたのはC62の3号機でした。街中の公園に展示しているSLと違い、実際に動かすことができる梅小路蒸気機関車館のSLには感動しました。



梅小路のD50



梅小路のD52



梅小路のC56



梅小路の 9600



梅小路の SL たち